

JEA ニュース

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

Japan Evangelical Association

目次

《巻頭言》	1
関西宣教フォーラム in 大阪	2
流れのほとり	3
日本の教会戦後 70 年	4-5
米国福音派の歴史	6
ネパール大地震被災地訪問	7
JEA アップデート	8



カトマンズ近郊ナガルコットの仮設住宅前にて（中央は NCFN 総主事の KB Tamang 師、左端：松本順援助協力委員長、右端：村上正道援助協力委員、右端隣り：中台孝雄 JEA 理事長・援助協力委員 p.7 に関連記事）

結び目を作っていく働き

「また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わせられ結び合わされ、それぞれの部分は分に应じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。」エペソ人への手紙 4 章 16 節

JEA（日本福音同盟）宣教委員会は東日本大震災以降、秋田・仙台・福島で宣教フォーラムを行ってきました。被災地でもたれた宣教フォーラムから見えてきたのはネットワーク作りの大切さということでした。岩手においては顔見知りの牧師達の声かけによって沿岸部への物資援助が始まり、宮城では地域ごとの宣教ネットワークが積極的に活動しています。福島においてはまだまだ先が見えない状況ですが、放送伝道の協力関係が母体となって、福島県キリスト教連絡会が立ち上げられ、人々に希望を届けています。キリストを基とした協力関係の「ネットワーク」が、地域での福音宣教の鍵になっていくことを教えられています。

また近年は災害時に備える地域防災ネットワークも注目を集めています。地震などの災害があった場合に、自転車で行き来できる近くにある教会同志が助け合う大切さです。被災時には援助の迅速さが大切になってきます。同じ教団に属する遠くの教会の助けを待っていたのでは、間に合わない時もあります。その地にある教会同志が、共にしっかりと結び合わされるなら、その地域に主に愛を届ける援助の働きに大きく用いられるでしょう。そのために近隣の教会の牧師や役員・信徒同士がある程度顔見知りになっている必要があります。

昨年、東京でもたれた宣教フォーラムでは、このキリストを基とした協力関係の構築の大切さが話し合われました。キリストの身体が語られているエペソ 4 章 16 節の「すべての節々の助けにより」の「節々」は結び目の重要性を語っています。主にある結び目を積極的に作っていく努力が大切である



中西雅裕
JEA 理事・宣教委員長
ホーリネス横浜教会牧師

ることを教えられました。教会の伝道牧会において、教会員と教会員、働きと働きが結び合わされていくことによって御業が進められているように、今後の日本宣教においても、この結び目が鍵になっていくことでしょう。

今年は「関西の協力伝道の『これまで』と『これから』」というテーマで「関西宣教フォーラム in 大阪」が開催されました。このフォーラムでは、近畿福音放送伝道協力会や大阪宣教祈禱会などの協力が活発に行われてきた大阪で、今までどのようにネットワーク作りがなされてきたかを探り、検証し、今後の日本の宣教協力にどう生かしていくかを深く考察しました。先にできていた関係作りの働きから学ぶことは多く、有意義な時となりました。

来年、2016 年には「第 6 回日本伝道会議」が神戸で開催されます。すでに良き準備がなさ

（▶ P.8 に続く）

「ここからネット」

関西宣教フォーラム in 大阪をふりかえって

JEA 宣教委員会協力スタッフ
永井敏夫
J.ClayHouse

9月28日と29日の両日、大阪クリスチャンセンターで宣教フォーラムが開催された。今回のフォーラムは名称に「関西」がついていることから分かるように、ひとつの地域だけに限定せず関西諸府県の教会に呼びかけたものであった。また「in 大阪 2015」にあるように、大阪の諸師が実行委員会を形成し、祈りながら詳細な企画を立て開催したという点もユニークであった。今回の「宣教フォーラム」は宣教委員会と現地諸教会の実行委員会の共催という形態がとられ、今後のひとつのモデルになったとも言える。



堀内 顕師

まず開会礼拝では「神の御心の深み」と題し、堀内顕師によるメッセージがなされた。礼拝に引き続いて、清水昭三師により関西での協力伝道の今までが語られた。近畿福音放送伝道協力会（1973年）の発足に始まり、日本伝道会議（1974年、1982年）やビリーグラハム大会（1980年）などの開催が協力伝道の流れを作ってきたことが語られた。清水師はまとめとして、協力伝道について「教会の識別力」が重要になってきていると話された。

協力伝道が必要かという「教会論」、協力伝道とは何なのかを見定める「識別力」、そして多く存在する伝道協力会が教会に与える影響への検討の三点が必要であることを言及された。

続いて「協力伝道のこれから」について松沢力男師が発題された。1961年に東京クリスチャンルセードで救われて以来、師は協力伝道に惜しみない関わりをしてきた。「各個教会（各教団）と宣教団体とは、キリストを中心として共に協力して、神の国の拡大のために励む」事の重要性が熱く語られた。教会と団体が「ダイナミックな一体的関係」をもつことで伝道がさらに進展するという言葉には重みを感じた。

午後からは7つのトピックに分かれて2時間の分科会が行われた。

・「ファミリーミニストリー」（多様化する家族と向き合う）→ JEA 前女性員長の丸山園子師が、夫婦に、親子に、高齢者にどのようなミニストリーが必要とされているのか、教会でどう取り組んでいるのかという事例を紹介して下さった。教会で取り組むために大切な4つのステップが語られた。

・「21世紀の宣教」→次の三つの視点で発表された。まずビジネスでは、青木勝氏によりイスラムやヒンズーの方々とのビジネス領域でどう「隣人」として生きるのかというチャレンジが語られた。また、松崎ひかり氏によりディアスポラの人々に焦点を当てた宣教の諸協力の事例が紹介された。ディアスポラは主の主権の下で移動している人々であることを覚え、彼らが含まれることを前提にした宣教、教会開拓・教会形成をしていくことの必要性が語られた。さらに「痛みを担い合う教会」では、岩手の若井和生師、神奈川の阿部信夫師により東日本大震災後の復興支援活動の視点から、教会と地域との関係への言及があった。被災地の教会が向き合っている取り組みや葛藤等はいずれ日本の教会が向き合う課題となること、その地における教会の今そしてこれからのふるまいが今後の日本宣教の「試金石」とも呼べると語られた。

・「福祉と伝道」→長年福祉施設で高齢者の方々に向き合ってきた村上なをみ師から発題があった。利用者の方々、職員スタッフたちの信頼関係を築くことが大切であること、入居者のことを良く考え、いつも祈っていくことなどが語られた。また、教会で今対応できることとして、自立支援グループの形成、老人のためのプログラム、細やかな対応などが紹介された。

・「スポーツ・ミッション」→堺市でサッカーを通して地域の子どもたち、保護者たち、そして学校と繋がっている葛田聡毅師が発題された。1998年の長野冬季オリンピックの際にスタートした「長野オリンピック伝道協力会」から、シドニー・オリンピック（2000年）、日韓ワールドカップ（2002年）などでの取り組みの様子が紹介された。さらに来る2020年の東京オリンピックを画期的なスポーツ伝道のステップとするべく、スポーツミニストリーが確実に進展していることが語られた。

・「キッズ&ファミリーサポートミッション」→箕面めぐみ聖書教会の山下亘師が、子どもたちをどう教会につなげるか、次世代のリーダーたちを育ていくかという教会の使命について語ってくださった。キッズ&ファミリーフェスティバル、ARISE JAPAN（キッズワークショップ集会）など具体的な企画の紹介がなされた。（KFSM：キッズ・ファミリー・サポート・ミッション）

・「信徒の役割～父の約束に聴き従おう」→高田義三師より、「神は、ご自身の働きのために、多くの信徒を用いられる。」と旧新約聖書から諸模範が語られた。ハンドアウトにあった「キリストは私たちに期待して下さっている。」という言葉が印象的だった。

・「確実に青年宣教が進むために」（どこの教会や教団でも必ず結果が伴う青年宣教の方策）→ JEA 青年委員会の西村敬憲師が発題された。10代は人生で葛藤の多い時期であること、彼らを育成して初めて青年宣教が可能になること、諸団体に青年を送り、諸団体のノウハウを教会形成に生かしていくことなどが話された。

28日（月）夜の宣教大会（葛田聡毅師）、29日（火）午前の伝道セミナー（鎌野善三師）は、宣教フォーラムの実行委員会企画であった。青年たちに焦点を当てた大会、学びたい思いのある信徒の方々へのセミナーなど、地域教会のニーズを把握し、計画実行したことは、今後の「宣教フォーラム」にも大変参考になる例と思われる。29日（火）は、伝道セミナー（前述）とJCE6アワー（後述）に続いて閉会礼拝が行われた。中台孝雄師から、聖書の真理、人々の喜び、悲しみを共有する、分かち合う交わり（コイノニア）の大切なことが語られた。

来年9月に神戸で第6回日本伝道会議が開催される。今回の宣教フォーラムでは、来年の伝道会議につなげることが大切にされ、JCE6アワーの中で、プログラム関連、コイノニア（テーブルグループ）等について紹介がなされた。またフォーラム終了後に昼食をはさみ、開催地委員の方々、プロジェクト担当者たち、関西の協力推進委員方が集まり、9つのテーブルに分かれて自己紹介、宣教協力についての意見交換などの機会があった。JCE6は2023年のJCE7につながっていくことを大切にしているが、JCEと「宣教フォーラム」が互いに相乗効果となる関係であるために、今後もコミュニケーションが継続されていくことを願っている。

東京に戻る新幹線の車中から「ここからネット」と記された小さな会社の看板が見えた。「人と人、働きと働きを結び合わせていくことによってみわがが進められている」と JEA 宣教委員長中西雅裕師がハンドアウトのあいさつに記しておられたことを思い出した。私たちひとりひとりがネットワークの出発点であり、自分のいるところからネットワークが作られていくことを改めて思った。



28日夜の宣教大会

流れのほとりて

いつものように、いつもの場所で

「それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、・・・いつもの場所に着いたとき・・・」

ルカの福音書22章39～40節

私たちの人生には、私たちの「いつもの生活」を壊し、狂わせ、奪い去るような出来事が思いがけずやってくることがあります。その時、私たちはあらためて「いつものように」生活できることが実はどんなに大きな神様の恵みであるかに気づくことになるのです。

主イエス様の「いつものように」なさっておられたことの一つにお祈りがありました。主イエス様にとってお祈りは父なる神様との楽しい語らいと交わりの時でした。ルカの福音書22章から、主は「いつものように」「いつもの場所で」よく祈っておられたことがわかります。

「いつものように、いつもの場所で」の祈りは・・・

＊十字架を目前にしても変わらずになされた。

ご自分の人生の締めくくりを、しかも罪を犯したこともないご自分が、人々の身代わりとなって、十字架において迎

る。これは、簡単に受け入れられるものではないでしょう。けれども主イエス様はこの大切な問題だからこそ「いつものように、いつもの場所で」祈られたのです。主はその生涯の初めから十字架の死に至るまで「いつものように」祈るための「いつもの場所」をもっておられました。

私たちはいかがでしょうか。非常事態に直面して急に祈りの生活を始めようとしても無理があるでしょう。平穏な日常生活において、災害非常品を用意するように、人生の非常事態に力を発揮するのは、何も起きていない「いつもの」あり方ではないでしょうか。

「いつものように、いつもの場所で」の祈りは・・・

＊今日もこれからも続いていく。

主イエス様のお祈りはこの地上だけで終わったものではありません。死を打ち破り、甦えり、天に帰られてからも「いつものように」今度は神様の右の座で祈っておられます。(ヘブル7:24、25節)それは、私たちのための執り成しの祈りであり、応援歌です。今日も主イエス様は、あの十字架を前に祈られたように、必死で私たちと、私たちに関わるすべての人々や、抱える課題のためにともに祈って戦っていてくださいます。心から感謝しましょう。

＊ ＊ ＊ サンデーランチ ＊ ＊ ＊

★チキン・サラダ★

【材 料】

鶏肉(ササミ)250g(4～5本)、カレーパウダー 小さじ1、塩 小さじ1/2、サラダ油 大さじ1、パインアップル(缶詰)2～3スライス、みかん(缶詰)大さじ1～2

【ドレッシング】

サワークリーム70g、ヨーグルト(プレーン)80g、マヨネーズ20g(大さじ2)、パインアップル汁(缶詰)大さじ1、みかん汁(缶詰)大さじ1、カレーパウダー小さじ2～3、ターメリック小さじ1/2、塩、こしょう少々

【飾り】

アーモンドスライス大さじ1～2、レタス or サラダ菜2～3枚、パインアップル(缶詰)1スライス、みかん(缶詰)4～5スライス、こねぎ or パセリ少々

【作り方】

- ① 鶏肉を塩とカレーパウダーで味付をつける。
- ② フライパンにサラダ油を入れ、肉の両面をきつね色になるまで良く焼く。
- ③ 火を止め、肉が冷めてから、手で1x3センチの大きさにちぎる。
- ④ パインアップルとみかんをそれぞれをざるにあげ汁は取っておく。

- ⑤ パインアップルスライスを2x2センチの大きさに切る。
- ⑥ クリームを室温に戻すか電子レンジでなめらかになるまでちょっと温める。
- ⑦ ドレッシングの材料を順番に大きいボールに入れてかきまぜる。
- ⑧ 鶏肉とパインアップル・みかんを和え冷蔵庫で少なくとも2時間漬けておく。
- ⑨ アーモンドスライスをフライパンで炒る。冷めてからサラダの上にかける。
- ⑩ 葉を大きいお皿に並べ、その上に鶏肉サラダを盛り付ける。
- ⑪ 4～5等分に切って、サラダを飾る。お好みで飾る。



【お薦め】

サラダを前の日につくっておくと、味がよりよくなりしみ込み、おいしくできあがります。

世代をこえて日本の教会の戦後70年を考える

日本の教会の戦後 70年・50+20集会レポート

JEA 社会委員 須田毅
日本福音刊布教会連合 西堀キリスト福音教会

2月に当集会準備の最初の話し合いがあり、開催日程を決めた。私の手帳では、10月と11月のある土曜日に、「戦後70年 JEA 青年集会」と記し、その上を線で消した跡がある。これらは開催候補として挙がったが、諸事情で無理だと判断された。最終的に担当者が出席できる日程として9月19日に定まった。そのほぼ半年後、9月19日未明に安保関連法案が参議院で可決された。そのタイミングが狙い定められていたように、この日に「50+20」が開催された。

この集会の発端は、JEA のある加盟団体の社会委員会からの提案だった。「戦後 70 年を覚えて、教会の社会的責任を次世代に継承する機会となるような集会を、JEA で開催できないだろうか」という投げかけが JEA 社会委員会へあった。JEA 委員会より青年委員会へ相談し、その意義を受け止めていただき共催が決まった。その後は青年委員会主導で集会のかたちが整った。講演と説教、分科会、賛美フェスというプログラム構成は、



hi-b.a. 関係者によるワーシップバンド

てフェイスブックでも PR するような技術は、社会委員会にはないので、ただ敬服するばかり。また会場となる OCC の積極的な協力も心強かった。

「50+20」というネーミングは、教会の戦後70年をよく言い表している。戦後50年である1995年に多くの教団教派が戦責告白を作成した。第二次世界大戦下を歩む経験をもつ教会も、その経験のない、戦後にスタートした教会も、多くが戦責告白をつくった。しかし、この戦後50年という時点がひとつの頂点であるかのようにして、日本のキリスト教会の、日本社会に対して「地の塩、世の光」として発する声は、以後には小さくなってきたのではないか。以後の20年に何をしていたかと自らへ問う響きが、「50+20」にある。そして、20才前後の若い世代と課題を共有したいという願いも込められている。



当日は9:30スタート、終了が約18:30の長丁場だったが、山口陽一師の講演、朝岡勝牧師のメッセージとともに、多くのゲストによる分科会や賛美フェスも多彩で豪華な顔ぶれだった。それぞれ詳細にレポートすべき内容が豊かにあったが、総じて振り返ると、社会委員会の今までの



朝岡 勝師

取り組みの流れと、近年の多様化したキリスト教会内の意見を
配慮した流れと、二つの流れが共に集って対話する場を作ろう
とする努力の足跡を見る思いである。教会の社会的関心を戦後
からの流れとして継続的に抱いている人々は、第二次大戦下あ



山口陽一師

るいは直後の実際の経験をもっている方々が中心であり、現在の教会の中では少数者になってきている。社会委員会の路線は、そのような少数者のものでしかないのではないか、という意見をたびたび受けることがある。しかし、平和の問題はいつの時代の信仰者にも、身近に考えざるを得ない課題である。幼いわが子の成長が平和の中で守られるように祈り、社会状況を考え発言するように

なった若い母親世代の方もいる。神によって遣わされている生活の場で、アジア諸国の人々と共に学んだり働いたり、地域社会を形成する実経験をもつようになり、キリスト者として神を愛し隣人を愛することを、それぞれ真剣に祈り考えるようになり、課題を意識するようになった方もいる。社会的関心はキリスト者であるとしても、一市民として生活する中で、当然に抱く事柄である。今回、若い世代、小さな子どもたちを育てているお母さん世代の参加を促す配慮もあった（託児スペース）。初歩的なところから疑問がある方々の参加があり、また、今までの社会委員会の意見とは異なる立場の方の参加もあり、対話をする場面もあった。

戦後 70 年の歴史を振り返ることの意義や、今の多様な状況や取り組みを、諸プログラムから教えられた。また、世代を超えて、平和の神を賛美する幸いも得た。多くの方々と共に意義深く集会を過ごせた恵みを感謝している。戦後 70 年の間に、日本社会そして日本の教会内での平和観は変化してきた。しかし、私たちは主イエスの御言葉を根拠にした変わることのない平和を、信仰者として共通に思い描いているはずである。この集会に集った多くの若い世代が、「50 + 20」に続く歴史を刻んでいくことでもある。主イエスにある平和が、今までの 70 年よりも、これからより明瞭に証しされるようになることを祈っている。

50+20

2015.9.19 (SAT)

10:00-19:30

場所: お茶の水クリスチャンセンター

□10:00- 南濱 山口陽一



□総合通信・大嶋聖徳



□東原リード・川口竜太郎



戦後70年を語るこの年。歴代の首相は
恐ろしいほどの数で、大きく顔を覚えなくてはならない。
戦後50年経ち、多くの政治家は、戦前に習った
経験教訓への賛同と戦後礼拝の師匠を「改め、
戦後50年をこの20年、いざ歴史を学ぶの吉日に
とはと誤謬に生きていくを忘るべからず、
真実に、この20年を生きていくを忘るべからずと、
学ぼうよ、70年経ちが近づいたのだ、
50年で何を告げたいのか、
20年経ちた今、この歳は、教壇は空っぽになっているのか、
若い人、学生を惹きつけるか、
これらを考えていくべきとふんばると、
御用が来るように、天の賜物を手に取るようにと、
貧しい人、いそぎを、三日月、半端の夜であらう、

50+20

この吉日にまよきとよと願うことを祈っていただきます。
「私たちの今日の自覚を話し合えることを教えてください」
午後9時:12

【主催】社会党議員会・青年社会連合
【後援】3-1と3-2関係者 社会党議員会（中）/CCCの会（中）/日本共産党（中）/日本経済連済会（中）/労働組合
（中）/日本労働組合総連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）
【司会】日本労働組合総連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）/日本労働組合連合会（中）

□17:30- ムッゼジ 朝岡 孝



●プログラム案内●
10:00- 謝辞1
「戦後50年を語りつづけること、
この吉日にまよきとよと願うことを祈っていただきます」
山口 陽一
13:30- 分科会
分科会、討論会
15:30- 平賀義典フェス
分科会、グループ、討論
17:30- 50+20
19:30- 記念式典の開催
後援者

50+20青年参加者の声

20代 女性

今までテレビやインターネットを通して政治や憲法改正のことなどを聞いてきましたが、今回 50 + 20 の集会に参加させていただき今まで以上に政治について考える機会が与えられました。

集会中、大学生や新社会人の方々と分かち合う時間が与えられました。その中で、「今までは政治についてあまり関心が



分かち合いと祈りの時

薄かったけれども、今まで以上に政治に関心を持ち、日本のために祈っていかねばならないと思った。」という思いが共通して与えられました。クリスチャンの間でも政治について様々な意見や情報が

飛び交う中、何が正しいのか、これからの日本はどうなってしまうのかという混乱や不安の声も聞かれますし、SNS に次々と載せられる批判的な政治情報を見たくないという声も聞きました。

また、憲法改正に賛成だ反対だという意見が最近よく聞かれますが、そこにばかりに重点を置くのではなく、まずはクリスチャンとしてこの国のため、この国のリーダーたちのために祈る必要があることを感じました。

私たちクリスチャンが、この国のことを思っているのと同様に、国のリーダーも国の事を考え実際に動いてくださっています。

国のリーダーたちにも福音が届



ヘイトスピーチについて語る李明忠師

き、神様からの知恵をいただいてこの国をリードしていくことができますように祈ります。

そして何より、神様がこの日本を導いてくださることを信じ期待し祈り続けたいと思います。



平和フェスにはサルキーキなど3アーティストが出演

20歳 学生 男性

「戦後 50 年に生まれた自分たちの生きてきた 20 年間で、いろんなことがあった激動 20 年であったことを思いました。日本の戦後 70 年を 20 歳で迎えたことの意味を神様から受け取っていきたいと思います。」

20代 学生 女性

「ここ数日、安保法制のことで気持ちが不安になっていました。しかし 50+20 に集まった人たちと一緒に祈ることができて、賛美し、御言葉に聞くことができたことに大きな励ましと平安が与えられました。」

20代 社会人 女性

「分科会『ヘイトスピーチってどう思っているの?』にでました。李明忠先生の笑いを含めた率直な証に感動し、また自分の内なる差別に気付くことが出来ました。やはりイエス様の福音が一番大切なんだと思いました。」

20代 学生 男性

『「信仰は政治的に中立であらねばならない」という声に強い違和感を感じていました。あそこで政治の立場で一致して集まっているのではなく、信仰の故に声をあげるとの理由にすっきりしました。』

JCE6 に期待、青年牧師・信徒の全国ネットワークを

JEA 青年委員 山下大喜
日本イエス・キリスト教団 宇都宮共同教会

9 月 28 日 (月) から 2 日間にわたって開催された JEA 関西宣教フォーラムの後、29 日 (火) 午後から JCE6 一年前キックオフミーティングが開かれ、JEA 青年委員として参加しました。同年代の比較的若い神戸アナログ青年委員の先生方と昼食を交えながらコイノニア (テーブルディスカッション) の幸いな時間を過ごすことができ、良い機会を導いてくださった神様に感謝しています。

午後のテーブルディスカッションに参加して思ったことは、神戸アナログ青年委員の青年牧師たちの雰囲気が良かったことです。神戸アナログの働きは始まったばかりだと思いますが、神戸では教団教派を超えた青年牧師たちのネットワーク形成が着実に進んでいるように見えました。二十代、三十代の牧師の数は少ないですから、なおのこと青年牧師たちのネットワークが日本中で新たに形成されることを望みます。青年牧師

たちが孤独にならず教団教派を超えて多くの共闘者をもつことが将来の日本宣教のためにも必要です。

来年の第 6 回日本伝道会議 (JCE6) 開催の目的は、日本における宣教の前進です。そのためには青年牧師たちが霊的にさらに整えられて、神様に用いられやすい器になることも必須だと思います。JCE6 を通して、日本宣教のために神様にお仕えしたい青年信徒や牧師の間で新たなネットワークが形成されることや共闘者が与えられることを願っています。

※神戸アナログ委員会 = JCE6 開催に向けて神戸地区で立ち上げられた超教派の宣教協力グループ。JEA の 6 専門委員会に対応する形で組織されていることから、アナログ (類比的な) 委員会と呼んでいる。

牧師の本棚

「アメリカ福音派の歴史」

JEA 神学委員 三宅規之
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
めぐみ福音キリスト教会

2014 年から神学委員会に加わらせていただくことになりました。委員会に出席するたびに、素晴らしい先生方のご見識に触れ、良い刺激を与えられています。そして私たちのアイデンティティである「福音派」あるいは「福音主義」とは何かということを改めて考えさせられています。私たちがこのことを考える際、避けて通れないのが日本の福音派におけるアメリカの福音派の歴史的影響であろうと思います。しかし一口にアメリカの福音派と言ってもその定義は容易ではありません。特に近年アメリカの福音派というと大統領選挙関連のニュースなどに絡めて「保守派」「宗教右派」などと表現されることもあり、一般的な日本人の理解にも大きな幅があるような気がします。この問題を整理する一つの資料として、ここに紹介するのは青木保憲氏によって上梓された「アメリカ福音派の歴史 聖書信仰にみるアメリカ人のアイデンティティ」（明石書店 2012 年）です。著者はペンテコステ派に属する教会の牧師であり、本書は同志社大学神学部における神学博士論文を土台としています。

本書は「19 世紀後半の根本主義から 1980 年の福音派に至る歴史の変遷を、神学的な視点からひもとき、彼らに共通する特質を見出していくことを第一の目的」としています。そして「日本人に知られていない福音派の歴史を、整理して紹介」することを第二の目的としています。

福音派に関連する様々な用語が、各自の独自の定義で使われていることが、福音派を理解するうえでの混乱の大きな理由の一つであると思われます。著者によると、まず Evangelicals という用語は、19 世紀後半までは「宗教改革によって生じたプロテスタント教会」のことであったのが、「1960 年代以降に、保守的な聖書理解をもちながら社会問題へ関心を示す人々」が自らを Evangelicals と称したために混乱が起こったとしています。また Fundamentalist に関しても、「1920 年代に聖書批評学や進化論などに対抗するという意味で、神学的な論争を展開した神学者、牧師たちに率いられた集団」としての Fundamentalist に対して、1980 年代以降に「同性愛や中絶問題などの道德問題に関わり、これらに対して政治的な解決を求める集団」をマスコミが Fundamentalist と呼ぶようになったために二つの Fundamentalist が混同されてしまいました。この背景には 1979 年のイラン革命によって「イスラーム原理主義者 (Islamic Fundamentalist)」という用語がアメリカで使われた時期であったことが遠因であるとされます。さらに問題を複雑化させたのは、この Fundamentalist と呼ばれた人々のなかに「イスラーム原理主義 (Islamic Fundamentalist)」を想起させるこの名称を快く思わない人々が存在し、自らを

Evangelicals と称しはじめたことです。これによって、アメリカ国民でさえも 1980 年以降は Evangelicals も Fundamentalist も同じ集団を意味すると考えるようになってしまったといえます。このような歴史的経緯を知らないままに「単純に Fundamentalist を『原理主義』、Evangelicals を『福音主義』『福音派』と訳しては結果的にアメリカ福音派の歴史を大きく歪めてしまう」と著者は主張しています。

本書は 1870 年代から 1980 年代までの歴史的経緯にそって 1870 年以降の「福音主義 (Evangelicalism)」、「プロテスタント保守派」、「分離派」と「穏健派」、1920 年以降の「メインライン諸教会 (Mainline Churches)」、1940 年代以降の「新福音主義 (New Evangelicals)」、「根本主義 (Fundamentalist)」、「分離主義 (separatist)」、1960 年代以降の「福音派 (evangelicals)」、1970 年代後半からの「新宗教右派 (Religious New Right)」など一つひとつの用語を丁寧に定義しています。

アメリカの福音派の一つの特徴は、彼らが聖書批評学や進化論といった神学的課題に対応しただけではなく、公民権運動やベトナム戦争などの社会的問題にもしっかりと向き合い、声をあげていることです。そして時代とともに強調点を変えながらも、一貫して「聖書の権威、その正統性や真理性を普遍的なものとして捉え、これに立脚する生き方こそ自分たちのアイデンティティであると信じ」てきたことです。著者はこれを「聖書信仰」と呼び、「共通の過去」をもつことができないゆえに「共通の未来」を描き出すことで結束を保ってきたアメリカという国にあって、福音派が国家の「共通の未来」を「聖書信仰」に基づいて示し続けてきたことが、人々を常に獲得してきた要因としています。

著者の言うように、アメリカという独自の歴史と文化のなかでアメリカの福音派が存在しているということは否定できません。そのアメリカの福音派の影響を客観的に受け止めつつも、私たちは聖書を絶対的な真理と認め、唯一の指針として向き合う姿勢は、どのような歴史や文化の国であっても共通してもつことができる（またもたなければならない）姿勢であると信じます。日本という土壌のなかで「聖書信仰」に基づいてどのような発信ができるか、が私たちに課せられている課題ではないかと考えます。



ネパール大地震被災地を訪ねて

JEA 援助協力委員長 松本順
日本ホーリネス教団 上野教会

ネパール大地震のために多くのお祈りと支援金をお送りいただき心より感謝いたします。4月25日ネパールの首都カトマンズ北西約80キロを震源とするM7.8の地震による被害は、死者8,650名に及ぶ甚大なものでした。今回、10月12日～17日にJEA援助協力委員会から3名がネパールの震災被害、支援状況の視察のために現地に行ってきました。ネパールは経済的に困窮する上、政治情勢も混迷を極める中で、国による被災地支援も滞るような状況でした。その様の中でネパールのキリスト教会による支援活動が素晴らしい実を結んでいることをこの度の視察を通して見る事ができました。

ネパールにはJEAとアジア福音同盟(AEA)を通して交わりがあるNCFN(National Churches Fellowship of Nepal)という教会協力組織があり、JEAは主にこのNCFNを通して支援を行っています。首都カトマンズでは地震によって倒壊した家屋はすでに見られませんでした。住む家を失い仮設住宅に暮らす人々はまだまだたくさんいました。少し離れたナガルコットという村では地震で家屋が倒壊した家庭のために、波形のトタン屋根と竹の骨組みに泥を塗って作る仮設住宅が多数NCFNにより提供されていました。

中国との国境に接するタトパニという山の奥深い町にも視察に行きました。山間部では、地震による倒壊だけでなく山崩れが大規模な被害をもたらしています。至る所で道は寸断され支援の届かない所は放置されていました。この山奥にもNCFNによって避難所が作られ仮設住宅が建てられています。



NCFN が建てた仮設住宅

この他にも子どもトラウマケアの働きを進めるオペレーションセーフ、コイノニアチャーチのプラダン師、ビリーバズチャーチのナラン師の支援活動についてお聞きすることができました。ネパールはヒンズー教の国です。しかし今、多くの人が福音を受け入れ、キリスト教会が伸びています。どうか続けてネパールの人々の救いのために、被災者の癒しと回復のためにお祈り下さい。またご支援をお願いいたします。

◆援助協力関係 2014 年度会計報告◆

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

収入	科目	金額
	東日本大震災支援金	475,656
	世界の自然災害への支援金（常設）	214,076
	フィリピン支援金	81,420
	伊豆大島支援金	27,000
	広島支援金	865,941
	援助協力基金献金（常設）	150,000
	雑収入	86,144
	収入合計	1,900,237
	前年度繰越金	18,772,152
合計	20,672,389	

	科目	金額
支出	東日本大震災支援金	720,000
	フィリピン送金	900,000
	伊豆大島送金	780,000
	広島送金	600,000
	ネットワーク支援	433,835
	諸経費/事務所費	1,193,260
	支出合計	4,627,095
	次年度繰越金	16,045,294
	合計	20,672,389

《献金者リスト》 (敬称略・順不同) 2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

●援助協力基金(常設)

日本フリーメソジスト教団、小田原荻窪キリスト教会、清瀬バプテスト教会、小金井教会、長津田みなみキリスト教会

●東日本大震災支援金

日本イエス・キリスト教団柏原教会、基督兄弟団一宮教会、インマヌエル熊本キリスト教会、エルサレム会一同、岡山市民クリスマス実行委員会、大阪キリスト教学院教会、小金井教会、シオンの丘秋田キリスト教会、シオン・キリスト教団取手教会、西船橋キリスト教会、日本神の教会連盟、日本バプテスト教会連合、馬橋キリスト教会、MB大和聖書教会

●世界の自然災害への支援金(常設)

石岡シオン教会、シオン蒲田教会、清瀬バプテスト教会、世界福音伝道会、日本同盟基督教団、長谷川士壽・和代

●フィリピンへの支援金

昭和聖書教会、日本バプテスト教会連合、来 秀和

●伊豆大島への支援金

大磯キリスト教会シャロンの会

●広島土砂災害への支援金

イエス福音教団、大磯キリスト教会、日本イエス・キリスト教団岡南教会、学研都市キリスト教会、岸和田聖書教会、コイノニア・クリスチャン・チャーチ、シオンの群教会、シオン蒲田教会、西武柳沢キリスト教会、鶴瀬恵みキリスト教会、長津田みなみキリスト教会、西船橋キリスト教会、日本フォースクエア福音教団、日本ホーリネス教団上野教会、キリスト兄弟団西宮教会、枚方バプテストキリスト教会、平岸いづみキリスト教会、保守バプテスト同盟、保守バプテスト津田沼教会、町田金井バプテスト教会、南浦和バプテスト教会、宮崎北聖書キリスト教会、めぐみの丘チャペル、守谷バプテスト教会、百合ヶ丘バプテスト教会、横浜永谷キリスト教会、横浜キリスト福音教会、和歌山西バプテスト教会、土屋開夫

* 支援献金は以下の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします。

●郵便振替: 00190-5-7790

加入者名: (JEA) 日本福音同盟援助協力委員会

●三菱東京UFJ銀行: 神保町支店 普通口座 013-0305243

加入者名: JEA 日本福音同盟援助協力委員会 委員長松本順

※三菱東京UFJ銀行へ振り込まれる場合は、メールかFAXでお名前、住所、連絡先をお知らせください。

▶ P.1 より続き)

れ、テーブルミーティング(コイノニア)・講演・分科会・プロジェクトなどが計画されています。そこでも「結び目」、「ネットワーク」ができていくでしょう。神戸開催地委員会によるアナログ各委員会(JEAの6専門委員会に対応する地域宣教協力組織)の活動は、今後のネットワーク作りの参考になる取り組みであると思いました。JEA 宣教委員会としても、結び目を作っていくということを、より意識して日本と世界の宣教のためにこの伝道会議の準備に関わって行きたいと思っています。

また、宣教委員会では「宣教シンポジウム隣人シリーズ」を企画して世界宣教の潮流を紹介していこうとしています。昨年は、第一回目として「ムスリムの隣人を愛する」を行い、ムスリムの人々を理解し、クリスチャンとしてどのように彼らに接して行くかを学び、考える時をもちました。このシリーズも今後続けて行く予定です。

日本と世界の宣教のために、いろいろな働き・人・教会・団体の結び目を積極的に作り活かしていく。これが JEA 宣教委員会に主が期待されている働きだと思われています。

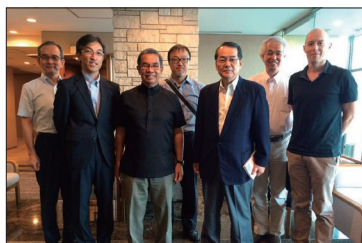
JEA アップデート



閉会礼拝で語る田中進理事



JCE6 各プロジェクトの発題とディスカッション



広島宣教協会の先生方と



長崎被爆 70 年平和祈念礼拝

■第 30 回 JEA 総会 戦後 70 年声明採択・JCE6 各プロジェクト立ち上げ

第 30 回 JEA 総会が、2015 年 6 月 1 日～3 日、静岡県掛川市で、加盟 54 会員(教団・教会)・41 協力会員(宣教団体)から 147 名(代議員・オブザーバー)の出席を得て開催されました。議長団は、議長:梅田登志枝師(イムマヌエル)、副議長:松村識師(JECA)、松島信人師(ホーリネス)でした。

今総会では「戦後 70 年にあたっての JEA 声明」が主要議題として協議され、3 日間に渡る活発な審議を経て採択されました。戦後福音派結集の原点に、自由主義神学との対峙、天皇制・国家神道体制を標榜するナショナリズムとの対峙の二つの軸があったことを再確認し、聖書信仰に立つて主イエスの十字架の福音を伝え、生き、平和を造り出す者となることを表明しました(全文は JEA サイト <http://jeanet.org/> をご覧ください)。戦後 70 年の節目の年にこのような声明を採択できたことは、今後の JEA の歩みに大切な意味を持つことになると思います。

総会中日には、2016 年 9 月神戸開催の第 6 回日本伝道会議(JCE6)に向けて、15 のプロジェクトからの発題と小グループ討議(コイノニア)が行われ、各教団・教会、宣教団体が協力して日本宣教の諸課題に取り組んでいくことを確認しました(JCE6 関連の情報については JCE6 サイト <http://jcenet.org/> をご覧ください)。

■ WEA(世界福音同盟)新総主事テンデロ師が被爆 70 年の広島・長崎を訪問

2015 年 3 月から新しい WEA 総主事に就任されたエフライン・テンデロ師(前フィリピン福音同盟総主事)と WEA 核兵器問題対策チームのタイラー・スティープンソン師(米国バプテスト出身、カナダ聖公会所属)が、2015 年 8 月 5 日～10 日、被爆 70 年を迎えた広島、長崎を訪問、平和祈念諸教会やシンポジウムなどに参加し、品川謙一 JEA 総主事も同行しました。

今回は核兵器問題で先行する WCC(世界キリスト教協議会)の訪問団に部分的に参加する形でしたが、スティープンソン師は、人間が造った核兵器にひれ伏すという意味で、核兵器問題は偶像礼拝であり、大量殺戮と放射能被害によって神の創られた命と人間の尊厳を脅かす罪であることから、福音派の視点でこの問題に取り組むことの重要性を強調していました。テンデロ師もフィリピンで地域紛争調停や貧困対策などを福音派の視点で推進してきた経験から、福音派こそキリストの十字架による真の和解と平和をこの世界にもたらすことができるのだから、WEA として積極的に核兵器廃絶に向けた貢献をしていきたい、そのためには被爆地広島・長崎のキリスト者の証言をもっと世界の福音派の中で分かち合っていくことが重要だと語りました。この訪問についてのレポートは 9 月に WEA 加盟各国福音同盟向けのニュースレターで配信されました。

唯一の戦争被爆国である日本という地に、福音派キリスト者として神様から遣わされている私たちの役割を改めて考えさせられた訪問でした。広島、長崎で伝道している先生方、教会のために祈りを合わせたいと思います。

JEA 総務局から

- ◆いつも JEA の働きのためにお祈りとご協力をありがとうございます。2016 年度・第 31 回 JEA 総会は 2016 年 6 月 6 日(月)～8 日(水)、静岡県掛川市のヤマハリゾート・つま恋で開催されます。第 6 回日本伝道会議(JCE6)に向けて、宣教協力の輪がさらに広がっていくようお祈りください。
- ◆JEA ウェブサイト(<http://jeanet.org/>)が 5 月にリニューアルされ、複数人での管理が可能になり、災害時の情報発信などにも対応しやすくなりました。スマートフォンなどの携帯端末からも見やすくなりましたので、ご活用ください。今後、各専門委員会のページなども徐々に充実させていきたいと思っています。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ 1:27)

JEA ニュース 48 号 発行・日本福音同盟(JEA)
発行者・中台孝雄 編集者・品川謙一
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
email: adminoffice@jeanet.org web: <http://jeanet.org/>